

海水から飲料水を製造する実験が三日、横浜市中区の山下公園で行われた。社団法人民間活力開発機構などが実施。装置はトラックに載せて運べる移動式で、動力には太陽光と風力発電を使っており、災害などの緊急時や水道が整っていない途上国などの利用が見込まれる。

実験ではまず、公園前の海から海水をポンプでくみ上げ、納豆菌で作られた沈殿剤で汚れを分離。水以外は通さない逆浸透膜でろ過した後、塩素やオゾンで殺菌した。数分後、きれいな水が蛇口から出るのを、国

海水から飲料水、自然の力で



民活機構など 山下公園で実験

納豆菌から作られた沈殿剤などを使って汚れを分離する装置＝中区で

際支援などの関係者らは興味深そうに見つめた。

開発には、食品産業向けの機器開発をしているベイシティサービス(横浜市)や横浜国立大などが参加。一日約千五百人分の飲料水(約七・二リ)が製造可能

という。

民活機構の木暮繁委員は「大型の海水処理装置は従来もあったが、移動式は初めて。災害などの緊急支援にも威力を発揮できる」と話していた。

(中沢穰)